# 福島第一原子力発電所現地確認報告書

## １　確認日

令和８年１０月２日（金）

## ２　確認箇所

・２号機原子炉建屋（遠隔操作室）（図１）
・滞貨ヤード（２号機タービン建屋東側）、小割テント（１号機タービン建屋東側）、中割ヤード（１号機タービン建屋北側）

## ３　確認項目

（１）２号機におけるロボットアームを用いた原子炉格納容器内部調査・燃料デブリ試験的取り出し作業
（２）１号機原子炉建屋オペフロガレキ小割解体ヤード等の運用状況

## ４　確認結果の概要

### （１）２号機におけるロボットアームを用いた原子炉格納容器内部調査・燃料デブリ試験的取り出し作業

東京電力は、２号機の原子炉格納容器内部調査及び３回目の燃料デブリの試験的取り出し（以下「内部調査・デブリ試験的取り出し」という。）を行うため、４月２１日に原子炉建屋内へロボットアームを搬入し、作業開始に向けて設置作業を進めていた。しかし、ロボットアームの動作確認時に、アームを構成する関節の１つのモーターに不具合が発生したため、モーターの交換等の対応を行ってきた。

これらの対応が完了し、本日から内部調査・デブリ試験的取り出しに着手することから、その状況を遠隔操作室にて確認した。

・東京電力社員が遠隔操作室において、ロボットアームを遠隔操作していた。作業はあらかじめ定められた手順に従って進められており、複数人で手順を確認しながら慎重に作業が進められていた。
・１０時００分、ロボットアーム装置の先端部が隔離弁※1を通過したことをもって、東京電力は内部調査・燃料デブリの試験的取り出し作業に着手した。
・確認した範囲において、原子炉格納容器内の圧力や温度等に異常は見られず、作業は順調に進められていた。

※１　隔離弁：原子炉格納容器の内外を仕切るために設置されている弁。

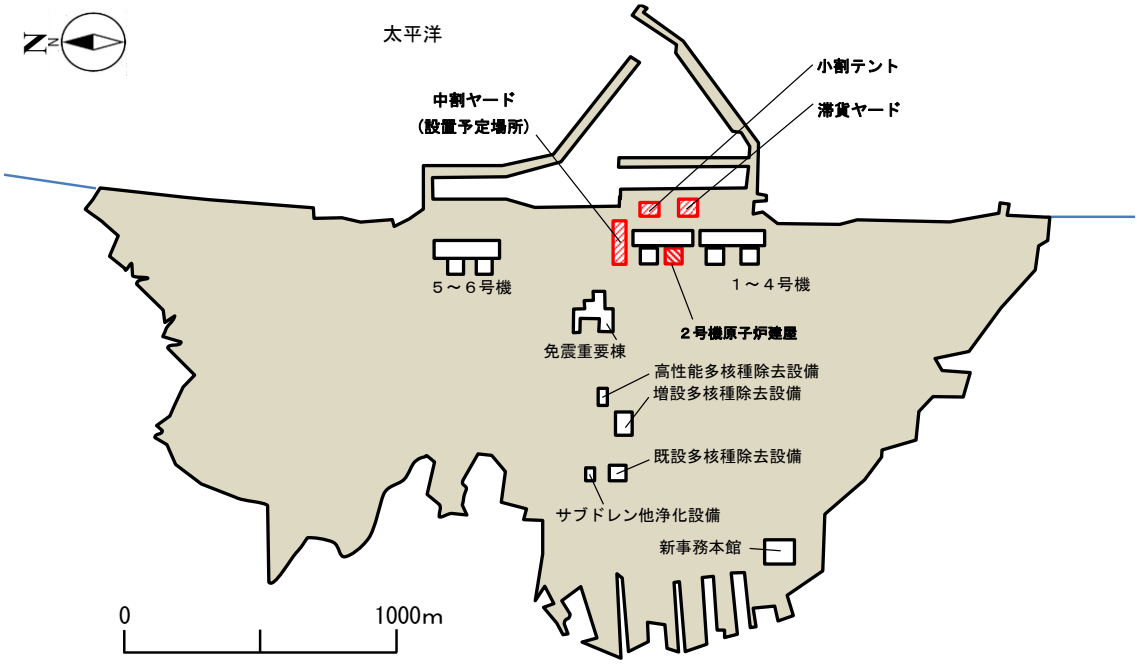
## （２）１号機原子炉建屋オペフロガレキ小割解体ヤード等の運用状況

東京電力では、福島第一原子力発電所の１号機使用済燃料プールに貯蔵されている計３９２体の燃料について、より安定した冷却・貯蔵が可能となる共用プールへの搬出を計画している。燃料取出しに先立ち、１号機原子炉建屋を覆う大型カバー内において、オペレーティングフロアのガレキ撤去、除染・遮へいの実施、燃料取扱設備の設置等を行うこととしている。なお、ガレキ撤去作業は、１号機原子炉建屋においてガレキを運搬容器（ベッセル等）に収納し、原子炉建屋の外に搬出、運搬する計画としている。

今回、ガレキ撤去作業に関連して、１号機原子炉建屋から搬出されたガレキの滞貨ヤード※２における保管状況、ガレキの切断等のために整備されている小割テント※３及び中割ヤード※４の状況等を確認した。（前回確認：令和８年７月１７日）

・滞貨ヤードは、コンクリート製のＬ型擁壁により区画されていた。また、ヤードの出入口には、遮へいシートが設置されていた。（写真１）
・小割テントは、骨組み、テントのシート及びシャッターの設置がほぼ完了していた。（写真２）
・中割ヤードの設置予定場所では、確認当日は中割ヤードの設置に向けた作業は実施されておらず、クレーンが仮置きされていた。（写真３）

※２ 滞貨ヤード：１号機原子炉建屋のオペレーティングフロアから搬出したガレキを一時的に保管する場所。
※３ 小割テント：ガレキを小さく切断した上で、固体廃棄物貯蔵庫保管用のコンテナに移し替える施設。
※４ 中割ヤード：１号機原子炉建屋のオペレーティングフロアのガレキのうち大型でα核種による汚染がないものについて、大型カバー可動屋根を開放して搬出した後、ガレキの切断等を行う場所。




（図１）福島第一原子力発電所構内概略図




（写真１）
滞貨ヤードの状況




（写真２）
小割テントの状況



（写真３）
中割ヤードの状況

## ５　プラント関連パラメータ等確認

確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。